

「バイオマスエネルギー技術研究開発／バイオ燃料製造の有用要素技術開発基本計画（案）」に対するパブリックコメント募集の結果について

平成 25 年 8 月 29 日
NEDO 新エネルギー部
バイオマス G

NEDO POST 3 において標記基本計画（案）に対するパブリックコメントの募集を行いました結果をご報告いたします。
みなさまからのご協力を頂き、ありがとうございました。

1. パブリックコメント募集期間

平成 25 年 2 月 14 日～平成 25 年 2 月 25 日

2. パブリックコメント投稿数＜有効のもの＞

計 2 件

3. パブリックコメントの内容とそれに対する考え方

ご意見の概要	ご意見に対する考え方	基本計画への反映
全体について		
<p>[意見 1] 商用機スケールでの実用化に資する技術確立のために、One Pot での同時糖化発酵プロセス (SSCF) の開発した場合、全ての槽に糖化のための攪拌装置が必要になり、過大な動力を伴う高額な装備になるものと思います。 また、メンテナンスも全数する必要があり、投資効果からみても、糖化と発酵の Vessel を分けた方が現実的な印象を持っております。固液分離や酵素回収も考慮しても分けた方が運用は容易ではないでしょうか。</p>	<p>[考え方と対応] ご意見のような取り組みもあると存じます。しかしながら、それは、既に別の事業で取り組まれています。本事業では、遺伝子操作等を用いて更に向上させた酵素・微生物の改良、及びそれらに適する同時糖化発酵プロセス (SSCF) を開発することにより、設備コスト、運転コスト等を削減し、より 2020 年の実用化を早期あるいは着実に進めるものがあります。</p>	<p>[反映の有無と反映内容] 特になし。</p>

<p>[意見 2]</p> <p>バイオマスは多成分から成る複合材料であり、それを構成する低分子・高分子・超分子状態の全容は未だ明らかになっていない。</p> <p>エネルギー変換あるいはマテリアル利用を合理的かつ高効率に行うにあたって最も重要なスケールであり、既存手法では定量・空間分布評価・物性評価が困難であった nm から μm までの【メソスケール】を主対象とした新規評価法を確立することを提案したい。これにより原子から超分子に至る膨大な情報を <i>insitu</i> で【三次元可視化】することにより、バイオマス利用全分野に応用可能な技術と展開できる。</p>	<p>[考え方と対応]</p> <p>本事業では、エタノールへの糖化・発酵生産能力向上の開発を行い、2020年の実機スケールでの実用化に適用可能な生産技術を確立すると共に、バイオマス原料についても、植栽技術による収量アップや不良地耐性、糖化効率向上等の機能強化した植物の創成技術を確立することを目的としています。</p> <p>本事業は、基礎研究ではなく、実用化に適用する実証研究を主としておりますので、ご提案の新規評価法を確立は、基礎研究に該当しますので、本事業として妥当でないと考えます。</p>	<p>[反映の有無と反映内容]</p> <p>特になし。</p>
---	--	----------------------------------

以上